

平成27年4月10日

北海道教育委員会教育長 様

北海道美深高等養護学校長
(あいべつ校)
佐々木 誉 之 印

次のとおり平成26年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

① 保護者や地域に信頼される学校の基盤づくりに努める。
② 生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、「社会自立」を目指した新たな教育課程の整備に努める。
③ 本校との役割分担と円滑な機能連携に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教職員	・経営方針、安全指導、進路指導、情報発信、地域との連携、保護者対応（懇談、服務規律の遵守）については100%の肯定的回答を得た。新しい学校づくりを進めるにあたり、開校初年度の短期目標の達成によるものと捉える。また、教職員一人一人が服務規律の遵守を強く意識し実践してきた結果も表れた。 ・教育課程、生徒指導、保護者対応（PTA活動）について、肯定的回答90%を下回った。27年度2学年展開にむけた教育内容の整備や指導体制等の工夫、個別の指導計画、個別の教育支援計画の充実が課題となる。	・企業内作業学習は、知的障害教育において大変意義深い学習活動と捉える。実習を中心とした教育課程の下、実践に取り組むことが重要。 (学校評議員古川氏)
改善方策	・PTA活動の充実に向けて、研修部、厚生部、広報部の事業について、保護者の参画を積極的に進める。 ・様々な職員研修や会議を活用して、服務規律の徹底について周知する。	
保護者	・保護者対応における教職員の態度や、情報伝達、事務の手続き等については100%の肯定的回答を得た。 ・個別の教育支援計画や個に応じた授業の実践について、肯定的回答90%を下回った。保護者との連携の下に作成される個別の教育支援計画の一層の充実と生徒の特性に応じて課題を解決する授業実践への期待が明らかになった。	・開校初年度、大きな事故やトラブルがなく保護者は安心している。今年度の反省を基に、中身の濃い指導を実践することが大切。 PTA活動の発展・充実に向け、例えば学校給食などの試食会を計画するなどして、給食に対する理解を深めたい。 (学校評議員高橋氏)
改善方策	・個別の教育支援計画、個別の指導計画のPDCAサイクルについて見直し、生徒の課題を解決する授業について研究のテーマの中で取り組む。	
生徒	・通学型の本校に入学して、比較的充実した学校生活を送り、生徒の様子を観察し、生徒の些細な変化に気づき、相談や面談をを行ってきたことが高い評価につながった。 ・どの学習においても「社会人にむけて」という目的が生徒に浸透した。	・分かりやすい授業の項目がやや低い評価となっているが、今取り組んでいる実践を大切にしながら積極的に進めることが重要である。 (学校評議員古川氏)
改善方策	・カウンセリング等による自己理解の伸長を図る。 ・社会生活に必要なルールやマナーを身に付けるために、その目的や理由等を伝える。	
公表方法	・ホームページへの掲載 ・保護者懇談会での説明	

3 添付資料
教職員アンケート結果、保護者アンケート結果、生徒アンケート結果